

第5学年1組 音楽科学習指導案

授業者 T1 教諭 海野 理恵
T2 教諭 安孫子昌子

1 題材名 重なり合う音の美しさを味わおう

2 題材の目標 音の重なりや和声の響きの美しさを味わいながら表現する。

3 題材でひもとく音楽の要素や仕組み 【音楽の縦と横の関係】

4 題材設定の意図

(1) 題材観

本題材では、前題材での和音の学習に続き、合唱活動を通して、和声の響きや和音の表情の変化する面白さを感じ取って、美しい響きによる表現を目指す。声を重ねることにより生まれる響きを和音としてとらえ、三部合唱に取り組む。その際、三部合唱部分の和音を確認したうえで、和声の響きを意識して合唱に取り組み、その響きの美しさを実感的に味わうようにする。これにより、和声のもつ表情を感じ取ったり、和声に対する感覚の育成を図ることができるのではないかと考える。

(2) 児童の実態 (男子15名 女子16名 計31名)

1学期の二部合唱の学習により、児童は、旋律の重なり方の違いや響きの変化を感じ取り、斉唱とは違った楽しさや面白さを体感することができた。

事前のアンケートでは、以下のような結果になった。(7月調査)

・合唱の学習は好きですか。
好き 22人 どちらかといえば好き 8人 どちらかといえばきらい 1人
・合唱の学習で、どんなところが好きですか。(複数回答)
音が重なる 10人 みんなで歌う(合わせる) 6人 きれいに聴こえる 3人
斉唱とは違う(きれい、迫力がある) 3人 みんなで考えたのを歌うのが好き 2人
いろいろな歌い方で歌える 高音と低音で、低い方が歌いやすいところ
1つの音を聴いていて、別の音が聴こえてくるのが楽しみ など
・合唱する時に、どんなところに気をつけていますか。(複数回答)
速さ 22人 パートのバランス 22人 強弱 21人 音の重なり 20人
音程 16人 リズム 14人 拍子 13人
・合唱曲を聴く時に、どんなところに気をつけて聴きますか。(複数回答)
強弱 23人 パートのバランス 20人 音の重なり 18人 速さ 16人
リズム 16人 音程 14人 拍子 8人 歌詞の意味 5人

アンケート結果からも、ほとんどの児童が合唱の学習を楽しんでいると感じている。そして、半数以上の児童が音の重なりを意識して、歌ったり聴いたりしている。

(3) 指導観

和音を声で表現するためには、和音から自分の歌う音程を見つけ出す技能が必要で

ある。そのために「朝のハーモニー」活動で、和音から音取りをする活動や輪唱を楽しむことを日常化しておく。この活動を活用した音取りをすることにより、音楽の縦の仕組みを意識させる。これらにより、三部合唱のハーモニーをつくり上げ、和声の響きの美しさや旋律にともなって変化する和音進行の面白さを感じ取らせたい。

5 教材について

- ・「それは地球」（長崎 一男 作詞 森 京太郎 作曲）

和音や和声の響きを合唱により味わうことのできる教材である。3段目の1, 2小節が分散和音になっており、4段目の三部合唱では、I・IV・V・V₇の和音が進行することにより、和声の響きの変化を味わうことができる。

6 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
歌唱	○	○	○
器楽			
創作			
鑑賞		○	
評価 題材 規準	合唱による歌声の響きの美しさに関心を持ち、進んで歌唱表現に取り組もうとする。	和声の響きの美しさを感じ取って歌唱表現を工夫している。	他の声部を聴きながら、響き合う自然で無理のない歌声で合唱している。
学習 活動 の 評価 規準 にお ける	①三部合唱の響きに関心を持ち、各声部を繰り返し歌おうとしている。	①音の重なりや和声の響きの美しさを感じ取っている。 ②和声の響きの美しさを感じ取って歌唱表現を工夫している。	①和音の響きの中から音程をとり、三部合唱をしている。

7 学習と評価の計画（4時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	具体的評価規準
第1次 (1)	○三部合唱の響きに関心を持ち、進んで歌う。	「それは地球」 ○曲全体の構成を確認し、主旋律や響きをつくる旋律の音程に気を付けて歌う。	アー①
第2次 (3) 本時は 第2時	○和声の響きの美しさを感じ取って、三部合唱をする。	「それは地球」 ○歌声による三度の音の重なりや響きを感じ取って聴く。 ○和声の響きの美しさを感じ取って表現を工夫する。 ○歌声が重なり合って響く美しさを三部合唱により表現する。	イー① イー② ウー①

8 本時の学習（第2次 第2時）

(1) 本時の学習について

本時の学習では、和音から音を取り、和音伴奏に合わせて三部合唱をする。和声の響きを感じ取って歌うことにより、和音が響いて動いていく面白さや合唱の美しさに気付かせたい。

(2) ねらい

三声の音の重なりや和声の響きを感じ取って合唱している。

(3) 準備・資料

拡大譜，学習カード，オルガン

(4) 展 開

学習内容と主な学習活動		教師の働きかけ（◆学習活動における具体の評価規準）	
		T 1	T 2
1	<p>児童作品を使って和音遊びをする。</p> <p>(1) 3つの旋律を重ねて、リコーダーで演奏したり、歌ったりする。</p> <p>(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいなハーモニーだ。 ・自分のパートの旋律を覚えていたからできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○和音の学習にフィードバックし、和音の響きを楽しむ。 ○和音伴奏をする。 ○各パートの旋律で音程をとって歌うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前題材で扱った児童による創作作品を提示する。 ○ラで歌うように指示し、三つの旋律の音の重なりを意識できるように支援する。
2	<p>本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">3つのパートを重ねて歌おう。</div> <p>(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの時と同じように聴こえるだろうか。 ・自分たちでもきれいに響くだろうか。 ・斉唱よりかっこよくなりそう。 ・初めての三部合唱だから不安だな。 ・つられてしまいそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○三つの旋律の声の重なりによる響きについての感想を児童に問いかけ、本時のめあてへと導く。 ○全員で三つのパートのそれぞれの旋律を歌って音程を確かめてから、活動を始めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてを示し、「それは地球」の合唱部分を拡大譜で確認しながら、学習活動の流れを示す。 ○主に、4段目の三部合唱部分を歌うことや和音伴奏からパートの音を取るなど、学習の進め方を説明する。
3	<p>「それは地球」の三部合唱をする。</p> <p>(1) 2グループに分かれて歌う。 (和音伴奏)</p> <p style="text-align: center;">I → IV → V → V₇ → I</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4段目を繰り返し歌う。 ・一音ずつ確かめながら歌う。 ・和音伴奏と歌声の響きに視点をおいて歌う。 ・3，4段目を歌う。 ・はじめから歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の気付きを取り入れることができるように、2教室に別れて少人数での支援をする。 ○和音伴奏に合わせて音を取るようリーダに伝える。 ○各パートの旋律が和音伴奏のなかの構成音のひとつであることを確認し、和音から音程をつかんで歌うことを意識できるように声をかける。 ○ラヤマで歌うようにする。 ○児童と共に歌うことにより正しい音程で歌うことを意識させ、和声の響きのなかでパートの音が取れるように支援をする。 	

<p>(2) 全員で三部合唱をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱部分の音を伸ばして歌う。 ・和音伴奏に合わせて歌う。 ・聴き役の児童が歌声全体の響きを確認めて、友達に伝える。 ・ピアノ伴奏に合わせて曲を通して歌う。 	<p>○ピアノや声による和音伴奏をすることにより、和声進行の響きの中で合唱をする楽しさが味わえるようにする。</p> <p>◆和声の響きの美しさを感じ取って歌唱表現を工夫している。</p> <p>(イー② 歌唱活動の観察, 学習カード)</p>	<p>○聴き役の児童を指名し、三部合唱の部分の響きについて感想を引き出す。</p>
<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 三つのパートの歌声が重なったときの感想を話し合う。 (予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三部合唱ができてうれしい。 ・和音伴奏の響きの中で音が取れたからうまく歌えた。 ・迫力がある。 ・とてもきれいに響いた。 <p>(2) 本時の学習をふり返り、学習カードに書く。</p>	<p>○声による音の重なりについての感想を取り上げるようにする。</p> <p>○児童から出された意見を音楽ポケットや拡大譜を活用して確認し、学習のまとめをする。</p>	<p>○三部合唱についての感想や気が付いたことなど、児童の発言を取り上げる。</p> <p>○グループ活動での体験を取り上げて、発言をうながす。</p> <p>○児童の発言から、次時の学習のめあてを引き出す。</p>

9 観点別評価の生かし方

【音楽的な感受や表現の工夫】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断するキーワード
<p>イー②</p> <p>和声の響きの美しさを感じ取って歌唱表現を工夫している。</p>	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートによる歌唱活動の観察や学習カードへの書き込みからとらえる。 <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童と共に担当したパートを何度か斉唱し、和音伴奏に含まれている自分の音程をつかませる。 ・聴き役を担当させて、和音伴奏の中での歌声の響き具合を感じ取らせる。 <p>【Aと判断するキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>和声の響きを生かした歌い方 <input type="checkbox"/>和声の響きについての積極的な発言